



ハイライトよねやま号外

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、多くの尊い命が犠牲となられたことに深い哀悼の意を表します。ここに謹んで亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

1 奨学生・合格者の安否確認を行っています

米山記念奨学会では、特に被害の甚大な第2520地区（岩手県・宮城県）、第2530地区（福島県）、第2820地区（茨城県）について、現役奨学生（3月終了者含む）と合格者の安否確認を行っています。対象者116名のうち、107名については、無事であることが今日までに確認できました。残る9名（継続奨学生1名・3月終了者8名）につきましても、大学を通じて、引き続き確認を行ってまいります。

なお、この度の震災と、それにとまなう福島原発事故により、母国からの指示で一時帰国する在日留学生が増えています。もちろん本人の意思による場合もありますが、海外では原発事故の影響について、日本より過激な報道をされていることもあり、親から帰国を懇願されたり、校舎や研究室に被害が出てしばらく研究ができないといった事情で、やむなく一時帰国するケースも多いようです。このような留学生の事情について、ご理解くださいますようお願いいたします。

一時帰国する継続奨学生および合格者については、所定の手続きが必要になります。詳しくは、米山奨学会ホームページ（<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>）を参照ください。

2 各国の学友から震災に寄せられたメッセージ

「東北地方太平洋沖地震」が発生した3月11日以降、米山学友・奨学生たちから、日本の安否を心配するメールや激励のメッセージが次々に届いています。

- 今回は本当に大変な事態になって、大きくショックを受け、心がすごく痛みました。勤勉で親切な日本の国民、中でも私の第二の故郷である東北の皆さんがこのような大災害に巻き込まれ、人命が失われ、これまで創造してきた生活が崩れ落ちているのを見て、この2日間はいても立ってもいられない思いでおりました。できることならその場からすぐに日本へと飛び出して、自分にできるかぎり尽力したいと思ってきました。（中略）私たちにできることは何かと一生懸命に考えています。これからできることが出てきたら全力で当たりたいと心準備はできています。何かあれば、私たちにご提示していただければうれしいです。
【モンゴル： ジャンチブ・ガルバドラッハさん】
- 東日本大地震の中で、日本国内の皆さんたちが混乱せず、静かに対応していることに対して中国テレビや新聞で報道されました。世界のどこに行っても、このような大災害時に日本人のように、人に気遣い、相互で協力し混乱なく対応することは大変難しいことだと思います。このような時にも素晴らしい日本人の誇りが世界で知られています。私は、元奨学生として、改めて日本人の誇りを見て感動しています。今仕事で中国に居ますが、私でできる限りのことをしたいと思います。最後に、日本ロータリークラブの皆さんたち及び関係者の皆様のご健勝であることをお祈りいたします。
【中国： 趙柏飛さん】
- タイ国だけではなくいろんな国が大変なときに必ず最初に手を伸べしてくれるのは日本です。今度はこちらがお返しする番です。今回は今まで日本国の皆さんが与えてくださった人生の財産になる知識、その温かみに恩返しするつもりです。会社経由で募ってる義援金のかたちで少ないですが、日本国にお返しできるように、早く復興できるように心よりお祈り致します。
【タイ： プサコーン・ホンヨックさん】

このほかにも、たくさんのメッセージを頂きました。いずれも心のこもったメッセージですので、ぜひ多くの皆さまに見ていただきたいと、当会ホームページ（http://www.rotary-yoneyama.or.jp）にまとめて掲載しています。トップページのニュース欄よりアクセスして、ご覧ください。

震災を見舞うメッセージに加えて、学友からの募金活動の報告も寄せられています。

海外・国内の米山学友会

台湾学友会、韓国学友会、中国学友会の各海外学友会では、地震発生直後にそれぞれ義援金の募金活動を開始。多くの学友が協力し、すでに多額の寄付金が集まっているそうです。

また、第 2650 地区、第 2760 地区、第 2780 地区など国内の各地区学友会でも、いち早く義援金の募金を始めました。「論ずるよりも行動！」というメッセージを寄せてくれた第 2780 地区（神奈川県）学友会会長の王剛さんは、国内の学友に向けて、「今こそ私たちが心を一つにして大きな行動に移す時ではないでしょうか。私たち日本で教育を受け、さらに経済面・精神面・生活面で多大な支援を受けた米山奨学生の気持ちを示しましょう！」と呼びかけています。

ロータリークラブを通じて

多くの卒業生が日本に留学している新モンゴル高校校長のジャンチブ・ガルバドラッハさん（写真左：上記 2 番でメッセージを紹介）も急遽来日。最近、母国のロータリアンとなったことから、所属するフレエ（Khuree）RC 会長からの親書と、会員全員からの義援金を携えて、22 日には米山奨学会事務局を訪問。義援金を当会に託した後、東北各県の卒業生や知人を見舞うために、宮城に向かいました。



また、中国米山学友会副会長の姫軍さんは、世話クラブの東京臨海 RC を通じて、中国から 50 万円の義援金を寄付しました。

職場で呼びかけて

それぞれの職場を通じて、募金活動を推進している学友もいます。米山記念奨学会では、今後このような学友の活動をホームページを通じてお伝えしてまいります。

- 中国大連で日本書籍専門書店を経営しております。日本東北太平洋沖に起きた大地震で多くの方が亡くなられて、本当に心を痛むような状況です！私としてはこの中国大連にしながら、何かをして日本の被災者を助けたい気持ちでいっぱいです。そこで、早速弊店内で募金箱を設置しました。そして、今日一回目、日本領事館に寄付金を渡してきました。 【中国：宋 東さん】
- 現在台湾の国立虎尾科技大学で教鞭をとっています。今週月曜日からわたしは本学で学生、教員たちに募金の呼びかけを始めます。皆さんは「12 年前の台湾 921 大震災のときも、前年台湾台風被害に遭ったときも、日本から暖かく支援を得たから、今度こそ、わたしたち恩返しの時だ」と募金活動に賛同します。大学の学長も募金の趣旨に賛成し、今日（15 日）学校の役員会議で全学募金活動に拡大しようと提案し、満場一致で可決しました。物価の高い日本にとって、焼け石に水かもしれないが、「がんばって、応援するよ」という気持ちを被災者に伝えてほしいです。一日も早く元に戻れるように、遠い台湾の空の下で祈っています。 【台湾：李 玉璽さん】
- わが大学（香港中文大学）では、3 月 18 日の午後 1 時 47 分にすべての仕事を中断して 1 分間の黙祷を行い、被災者のかたがたのためにお祈りを捧げます。今週の木曜日には大学中央図書館前の広場でキャンドルを灯して、被災者へのお祈りをする予定です。また、被災者救援のための募金を行い、義援金はすべて日本赤十字に寄付する予定です。長い間、日本の皆様にお世話になって、感謝しております。関東大地震や阪神大地震など数多くの災害に鍛えられ、乗り越えてきた日本の皆様がきっと目の前の困難を克服して、一日も速く平常の生活に戻れるようお祈りします。頑張ってください。 【マレーシア：徐 明珠さん】